

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	KOCHI中高生ミュージカル部「SKY」 (株)千クリエイティブカンパニー企画		
所在地	高知県高知市	設立年	2021年
運営主体	(株)千クリエイティブカンパニー		
事業目標	①学校の校区を越えた中高生によりミュージカルを制作することで、幅広い交流を図る ②感性、想像力コミュニケーション力を育む。 ③休日に活動することで、学校の先生方の負担軽減を図る ④専門家のスキルを活用し、学校の文化活動をさらに充実した内容で提供する。		
きっかけ	2020年に高知で開催された総合文化祭のオープニングでオリジナルミュージカルを制作したことがきっかけとなり、その後の世代の中高生にも校区を越えたミュージカル制作活動を、学生達の成長の場として提供して行きたいとの考えから2021年にスタートした。		
団体・組織等の連携	<pre> graph TD A[中学校・高等学校] -- "生徒の参加支援" --> B[KOCHI中高生ミュージカル部] B -- "参加生徒の情報共有" --> A A -- "募集告知" --> B B --> C[地域への貢献活動 ・来年度のイベントへの参加予定] B --> D[活動の成果発表 ・定期公演の開催] E[サポーターズによる評価会] -- "取組の支援 目標の検証" --> B F[地域の企業家 学校の教職員 文化団体の関係者] --- E </pre>		
活動場所	高知県高知市大膳町 高知リトルプレイヤーズシアタースタジオ		
活動概要	6月～7月に団員募集をかけたが、コロナウィルス感染拡大の波をうけ、8月まで延長して募集。30名目標のところ8名の申し込みと低迷。そこで、ダンスサポーターとして新たに9名の団員を追加し、合計17名のキャストと2名の学生スタッフで19名の活動となった。8月14日から1月15日までの25回の稽古を実施。1回の稽古は日曜日の13時～17時の4時間。本番は、1月6日高知県立美術館ホールにて14時からと18時～の2回公演を実施。観客動員数は238名。		

○本事業による成果

団員数は少なかったが、団員同士のつながりは、深く、学校区を越えた貴重な出会いと、絆を深める活動となった。中でも学校での友達関係に問題を抱え、学校に行けないでいた団員の一人は、このミュージカル活動で自信を取り戻し学校にも通えるようになり、新たな目標を作ることもできた。保護者の皆さんも貴重な体験となった事に参加して良かったと喜んで下さった。また、起業家、文化関係者、教育関係者からなるサポーターズクラブを組織して、活動を見守り貴重な助言をいただいた(別紙参照)ご来場のお客様のアンケートも好評コメントが多く(別紙参照)、参加した中高生も充実感と手応えを感じ、それぞれの自己肯定感に繋がっている。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ①劇団運営は、学生達の自主的活動となるように、部長、副部長はじめ、全員がスタッフを兼任して、自らが作る活動となるようにした。
- ②稽古の終わりには、必ず振り返りミーティングを実施し、情報や気持ちの共有を図り、お互いを理解し合いコミュニケーション力を育む取り組みをした。
- ③演出、振り付け、歌指導は専門家が取り組んだので、ステージもクオリティの高いものになりお役さまアンケートにも高評価をいただくことができた。

○運営上の工夫

- ①限られた時間の中での活動で、最大限できることを模索した。病気などでお休みのメンバーには、動画を送るなどITを利用してカバーした。
- ②なるべく中高生の自主的活動となるよう、ウォーミングアップや、会場づくりなどは、学生が担当するなど、なるべく専門家がやってしまわないように工夫した。
- ③地域のイベントへの出演機会もいただき、活動を地域の皆さんにも紹介することができた。
- ④起業家、文化関係者、教育関係者からなるサポーターズクラブを組織して、活動を見守り貴重な助言をいただいた(別紙参照)
- ⑤お役さまにもアンケートを実施し、感想をいただき(別紙参照)団員達の自己肯定感の底上げになった。また、今後の活動へのアドバイスもいただけた。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ①高知県高校文化連盟主催の開幕行事アトラクションに、ミュージカルを上演することができた。
- ②団員募集に苦戦した。この点で教育機関との連携がもう少し密にはかれたらよかった。教育委員会の後援はいただくことができたが、参加生徒の各学校との連携を図り、それぞれの成長を共有できればよかった。
- ③部費は1回2200円24回分(本番は部費対象から外すため)合計52800円の負担となった。保護者の理解は十分いただいているが、誰でも参加できる金額を考えると少し高価という意見も出た。
- ④次年度からは、助成金も打ち切りとなり、専門家に支払う謝金もなかなか調達が難しい。新しいシステムの構築が必要。例えば登録制にして、もっと安価にできる方法を模索していく必要があるのではないかと、の提案もサポーターの方からもいただいた。良い取り組みなので、継続できる形を文化関係者(文化施設など)の皆さんとの連携を図るのも良いのではないかと。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

これまでの、専門家との密接した関わりでの運営は資金面から難しい。もっと学生が自主的に演劇活動、ミュージカル活動に取り組めるよう、地域の文化施設との連携の中で活動するという新しいシステムを考えていくべきではないか。

サポーターズクラブの委員である、薫工ミュージアムや県民文化ホールなどの空き時間を有効利用したり、文化関係者が自主公演する事業に参加していくなど、ミュージカルに限らず、あらゆる可能性を測ってみると良いのではないかと。

2023年度は、高知市文化振興事業団主催の市民ミュージカルの開催も予定されているので、その事業との連携を図るなどの提案もしていきたい。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	17名
	学校名	高知高校 土佐女子中学高等学校 学芸高校 旭中学校 高知国際高校
	募集方法	ポスター チラシの配布
指導者	人数等	7名
	募集方法	高知リトルプレイヤーズシアター講師陣
参加者の移動手段		公共交通機関の利用 自転車 保護者が車での送り迎え
活動費用	指導者謝金等	@1500 で関わった時間数分
	その他	チケット売上 ’ @1500円かける218枚
活動財源	会費	1回のお稽古@2200×24回
	その他	寄付
スケジュール	基本活動	8/14、21、 9/4、11、25 10/2、9、16、23、30 11/6,7,8,13,27 12/4,11,18,26,27,29 1/4,5,6,15 運営打ち合わせ2/27
	年間	
保険加入等		イベント保険

【活動の様子（写真添付）】



